



未来への一步

～Let's create the future together～

第107号

はりゴン

発行：兵庫県立播磨特別支援学校

〒679-4002 たつの市揖西町中垣内乙135番地1

TEL (0791) 66-0091 URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~harima-sn/>

FAX (0791) 66-0092 E-mail harima-sn@hyogo-c.ed.jp

生徒会役員が 交流校の文化祭に参加

6月19日(金)、今年も龍野高校と山崎高校よりご招待いただき生徒会役員が文化祭に参加してきました。山崎高校では、相手校の生徒の前で学校代表として挨拶する生徒は、うまく挨拶できるか不安のようで、何度も何度も原稿に目を通していましたが、ステージ発表を観るうちに少しずつ溶け込み、落ち着いて挨拶することができました。学年のクラス展示やアトラクション展示を見て回る中で、本校でもできそうなことや取り入れられそうなことを真剣に考えていました。龍野高校では、代表挨拶する生徒が中学時代の友だちで久しぶりに会うことができ、大きく成長した姿を見ることができました。エレベーター完備のため普総科の生徒も色々な展示や模擬店を見て回ることができ、時間は短いながらも大満足の文化祭交流となりました。どちらの文化祭も素晴らしく、『播磨特別支援学校の文化祭も負けてられない!』と闘志に火が付いた一日となりました。



第1学年 職場見学

7月2日(木)、姫路市内2社の企業様にご協力いただき、1学年就業技術科の生徒が職場見学に行きました。午前中は、三菱電機モビリティ株式会社千代田工場様の製造ラインを見学させていただきました。はじめに、パワーポイントで会社の概要や、工場で生産されている車の部品などの説明を受けました。会社の福利厚生など、部活動や休日の過ごし方についてもお話しくださり、興味深く聞き入っていました。その後は、センターラインとモーターラインに分かれ、それぞれの製造過程を見学しました。製品ができあがるまでの工程を丁寧に説明してくださり、メモを取りながら初めて見る工場内の様子を真剣に見聞きしていました。

午後は、イオンリテール株式会社イオン大津店様の食料品コーナーのバックヤードを見学させていただきました。冷蔵庫や冷凍庫、総菜や精肉加工などを行っている様子を興味津々でよく見ていました。普段見ることのできない景色を見ることができ、貴重な体験ができました。今回の職場見学で、職業自立をめざす生徒たちにとって、就労に対する意識や意欲を高める良い機会となりました。



第2回販売実習(校内販売)

7月1日(水)本校自立活動室において、3学年就業技術科の生徒が販売実習を行いました。「生産(木工)、工芸(陶工)、環境(皮革)、園芸」で製作したものを販売しました。レジ、包装、商品説明のそれぞれの係に分かれ、役割分担をしてお互いに協力しながらスムーズな運営をすることができました。今までの経験を踏まえて商品説明をしている生徒や包装の仕方を考えながら袋詰めしている様子を見て頼もしく思えました。また、職場実習で学んだことを販売実習に結びつけて前向きに取り組む姿勢が伺えました。準備から片付けまで昨年度より自分たちで考えて動ける人が増えていたことがうれしく思えました。

地域の方々、保護者の皆様から「いつも楽しみにしている」「次はいつが販売?」とお声がけいただき、今回も大盛況に終わりました。また、卒業生も多く来てくれて激励の言葉をかけてもらい生徒は喜んでいました。卒業生も後輩の成長した姿に驚き販売実習を懐かしんでいました。本当にありがとうございました。



第1学年

性教育講演会

7月3日(金)にみさ助産院の助産師、前田美佐代先生を講師にお迎えし、性教育講演会を行いました。『思春期支援教室I～知らないことわい対人関係のエチケット～』という演題で、人との距離感について、自他のパーソナルスペースの違いを理解し、トラブルを回避するために必要なルールやマナーについて講演をしていただきました。人は五感で距離を感じるというお話では、見かけの清潔感や臭いなど、身だしなみの大切さを感じることができました。またロープを使った人との距離の体験では、不快に感じる距離が人によって違うことを体感し、みんなが安心な距離で過ごすことの大切さを感じることができました。講演を通して学んだことを、今後の実生活で活かし、体の距離が近過ぎる時にはお互いに声を掛け合える、適切な距離感のある、心の距離が近い学年になっていければと思います。

薬物乱用防止・

スマホ安全教室

7月10日(金)に姫路南サポートセンター所長の増田様を講師にお招きし、スマートフォン使用の際の注意の中で、甘い罠や見落としがちな点など具体例を示しながら教えていただきました。また、発信する前にそれを送って大丈夫か一度立ち止まること、SNSでの何気ないやり取りがトラブルや事件のきっかけになることを改めて感じる事ができました。薬物乱用の話では、市販薬の使い方を間違えると危険であることなど身近な事としてお話をいただきました。現役の警察官であり、様々な現場での事件や事故、事案に対応されてきたからこそその重みのある言葉に対して、生徒たちは真剣に話を聞いていました。同じ年代が事件に巻き込まれたり、事件を起こしたりしている中、生徒代表で謝辞を述べた生徒からは、「スマホを正しく使うことや薬物には絶対に近づかない。誘われても断る。」その決意を強く感じました。